

第1回奈良市子ども・子育て会議 会議録

開催日時	平成25年5月30日(木) 午後2時～午後4時	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室	
議 題	1. 会議の運営について 2. 事業計画策定部会の設置について 3. 子ども・子育て支援新制度について 4. 奈良市の現状等について 5. 次回会議の日程について 6. その他	
出席者	委 員	井岡委員、大方委員、岡本委員、亀本委員、竹村委員、西山委員、浜田委員、藤本委員、前田委員、横尾委員【計10名出席】 (欠席：畑中委員、掘越委員)
	事務局	仲川市長、中室教育長 【子ども未来部】 寺田部長、石原理事、山岡参事、中川子ども政策課長、福西こども園推進課課長補佐、竹内保育所・幼稚園課長、川尻子ども育成課長、上村子育て相談課長 【教育総務部】 福岡部長、西崎次長、奥谷教育センター次長、石原教育政策課長、乾教育総務課長、木内教職員課長 【学校教育部】 梅田学校教育課長、松田地域教育課長
開催形態	公開(傍聴者：なし)	
決定事項	・会長に大方委員を選任し、副会長に浜田委員を選任した。 ・「奈良市子ども・子育て会議運営要領」及び「奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会設置要領」について会議の承認を得た。	
担 当 課	子ども未来部子ども政策課	
議事の内容		
1. 会議の運営について 事務局より会議の運営方法を説明し、「奈良市子ども・子育て会議運営要領(案)」について、会議の承認を得た。		
2. 事業計画策定部会の設置について 事務局より市町村子ども・子育て支援事業計画の策定を主な目的とした、事業計画策定部会の設置について説明し、「奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会設置要領(案)」について、会議の承認を得た。		
3. 子ども・子育て支援新制度について 事務局より子ども・子育て支援新制度について説明を行った。		

4. 奈良市の現状等について

事務局より奈良市の現状等について説明を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

会長 ご説明ありがとうございました。ここで今までのご説明に対するご質問・ご意見等承りたいと思いますが、1つはまず資料4ですね。子ども・子育て支援新制度ということに関して、国から出されているものに対してのご説明がありまして、これだけでも説明だけで全部わかれたかどうかということもあるのですけれども、2ページですね、基本的な考え方として子ども・子育て関連3法というものが去年の夏に出されていて、それを受けてさらに今の内閣になって平成27年度をスタートとして本格的な実施に向かっているというのが国の方向性。さらに4月から国として子ども・子育て会議が設置されて始まっている。それを各市町村の方でも子ども・子育て会議を作って地方にどんどん任せていく。地方の実態に応じて実情を調査して、それに基づいて考えて下さいというのが大きなこの4月以降の国の流れです。それも去年までの流れとまた違いますし、今日は私立幼稚園と私立保育所の先生方も出席されていますけれども、子ども・子育てに関してはかなり国でも紆余曲折したので、非常にわかりにくいということがあると思います。基本的な考え方としてこの関連3法だけは去年の夏に成立しているということに基づいて動いているということをおさえて頂けたらと思います。それから、地域のニーズ調査というものをこの会議でもしていかなければならないということと、奈良としては既に黄色の冊子でしていらっしゃるという部分があって、このニーズ調査に基づいて決めていくというのが最終的にこの会議になるのであろうと思うのですけれども、奈良は非常に先駆けているような取り組みをなさっていらっしゃるということが、今のパワーポイントに出てきた資料5ですね、奈良市の現状等について私も今初めて拝見して感心して見ていたんですが、先程の資料トにもありましたように奈良市の次世代育成支援行動計画の中にも特定12事業として既に進められている部分があり、さらに奈良市の現状ということで幼保の再編ですね、この認定こども園のことで受けて再編計画も検討委員会でされているということがあって、皆様のご質問を受ける前に私から質問をさせて頂きたいんですけども、この検討委員会の中身は継続的に検討委員会でして下さると思っただらいいのでしょうか。この再編計画に関しては、ここで何か議論するわけではないということによろしいのでしょうか。

石原理事 幼保の再編につきましては、この検討委員会の方で今後も継続してやって参りたいと考えております。主な役割としましては、市立幼稚園と市立保育所の再編計画を立てながら、あとは民間保育所であったり私立幼稚園

との中で総合的に奈良市全体の保育の量を確保できるような形で考えております。

会長

ということでございますので、ここで検討委員会のやっていることを引き継ぐわけではないので、再編計画に関してはそちらの検討委員会で検討してやっていただくということを共通理解としてもおかないといけないのかなと思いき質問させていただいたところです。資料5の5ページに幼保再編検討委員会というのがあって、この部分に関してはこのまま実施していくということで私たちは共通理解をしていきたいと思っております。ですから、ある意味奈良は進んでいる、国に先駆けてらっしゃる部分もあるので、非常にありがたいなと思っております。本題は、再編の理念というのが9ページにありまして、2つの理念があって、1つは就学前のすべてのということで、すべてですから、保育所に入っているとか入っていないとか幼稚園に入っているとか入っていないということに関係なく、すべての子どもの成長、発達段階に応じた質の高い教育、保育を一体的に行い、生涯に渡る人格形成の基礎を培うというための再編と、もう1つですね、安心して子育てができるよう様々な面からすべての子どもと子育て家庭を支援するというので、いわゆる幼稚園、保育所、認定こども園を含めた教育・保育部門の考え方の会議であると同時に、子育ての部分に関する、そして子育て家庭に対する支援ということと両方が子ども・子育て会議の中でも議論していかなきゃいけない点だと思いますし、国が言っている計画そのものも両方のことで言っていますので、そのへんのところもこの会議を今後進めていく中で皆さんと共通理解ができればいいのかなと思っております。特に皆様の方からもどうぞご質問等していただけたらと思うんですけれども。

副会長

質問なんですけれども、認定こども園の左京と富雄南というのは、できたことによって何か大きな変化、例えば保育所的なものの入所者が増えてきたんでしょうか、この170名定員のところが108名とか167名というのは、現状より入所者が増えたということですか。

石原理事

もともとだいたい40名から50名ぐらいの規模の幼稚園でしたので、そこに長時間の保育という機能を付加させて頂いたのと、やはり給食のサービスも他の幼稚園にはない機能ですので、そうした形の保育所に近い機能を持たせていますので、3歳から5歳を対象にした施設ですけれども、利用人数が多くなっているということが1点と、もう1つは0歳から3歳までの未就園の子育て支援ということで親子登園という取り組みをしております。多いところだと200組ぐらいの0歳から3歳までの親子が

登園しております、毎日少し年齢は違うんですけども、0歳と1歳であれば月に2回、2歳であれば週に1回、3歳であれば週に2回というような形で午前中2時間ほど親子登園をさせて頂いておりますので、非常にそのあたりのニーズが高いということで、1つの子育て支援という機能を果たしているということでございます。

副会長 ありがとうございます。

会長 今までの説明がたくさん順番に出てきて、わからなくなっている方もたくさんいらっしゃるかと思うのですが、今日は1回目なので全容というか現状を知ることになると思います。亀本委員、何か質問がありますか。

亀本委員 この会議の意義はだいたい理解できたかなと。非常に大きな取り組みだと思っておりますので、その辺についてはおいおい研究しないといけないなと思っております。1つ意見なんですけど、少子化が非常に進行して奈良市も奈良県も全国としても厳しい状況になっていまして、その調査のアンケートのところに理由等がいろいろ書かれていましたけれども、個人的な見解ですけれども、やはり経済環境、今の若者の就労や、今の景気の解消に向けていろいろされてますけれども、そこにも影響しているんで、奈良市の次世代の頃からずっと関わらせて頂いて一緒にいろいろ意見も出させて頂いてますが、非常に一生懸命頑張っておられて成果も上がってるんですけども、それとは別になかなか少子化については先程の数字を見るように、そこについてはあまり変わっていない現状があります。今、文献が思い出せないんですけども、ある調査によると、非正規の就労が非常に増えていて、もちろん晩婚化で当然結婚する年齢が高くなればなるほど子どもの数も減ってしまいますけれども、結婚したいと望んでいる人はあんまり変わっていないんですよ。でも、実際に結婚を望んでいる人ができてるかできてないかという、やはり非正規のところと正規雇用のところでは相当違いがあって、正規のところの半分以下というようなデータも確かどこかで見たことがあるので、この辺の経済的な状況というのが好転しないと、いろいろここに書かれているような少子化対策の根本的なところは難しいのかなというのが最近実感としてあります。関係ないかもしれませんが。

会長 ありがとうございます。いや、すごく関係のあることです。この会議は市の方向性を決めるので、市長部局ともものすごく関連していて、結局少子化がうまく対策ができないと奈良に住む人が減っていったりとか就労の問題とかいろんなことがリンクしますので、根幹に関わるような貴重なご意

見だったと思います。ありがとうございます。横尾委員いかがですか。

横尾委員 子育て支援企業ということで今回声をかけて頂きました。今年度子育てほっと企業ということで表彰を頂きまして、今現在の育児休業者が約3人と、来月から入る者がおります。今月復帰予定だった者が保育園を希望していたんですが待機児童になってしまいまして、急遽また人材確保をしないといけないとか、そういういろんな課題が会社側にもあります。それとまた、当社は短時間労働制度を小学校就学前の子どもがいる者に関しては利用できるということで、そういう制度を作らせてもらっているんですけども、先月子どもがいる者から要望がありまして、小学1年生の壁というんですかね、逆に小学校に入ったら、特に低学年は早く学校が終わって早く家に帰ってきてしまう。もちろんバンビーホームもあるんですけども、5時までに終わらせると1人で帰ってきてもらう、6時まで延長すると5時以降に関しては親が迎えに行かないといけない。保育園に入っていたころは6時半まで預けることができたということで、バンビーホームに預けたとしても時間が小学校に入って早くなってしまったと。その点で、小学校就学前まで短時間労働制度を利用できるところを、9歳・10歳ぐらいまで延ばしてもらえないだろうか、という要望がいろいろありました。私も下の子が保育園に通っておりますので、そういう立場からもいろいろ意見できたらなと思っております。

会長 貴重なご意見ありがとうございました。小学校に行ってからの方が難しい、かえって早く帰ってくる。放課後のことは、また皆さん覚えておいて頂けたらと思います。井岡委員いかがですか。

井岡委員 保育園の数とか待機児童の数とか数字の面で、奈良市は頑張っておられるんだなとよく分かったんですけども、それと同時に数だけではない部分ですね、質というんですかね、子育てをする上で必要になってくるのは、こういう数には出てこないところがあると思うんですね。子育てをしやすいところ、その点で僕ら父親支援ということをやっていますので、父親がどれだけ関われるかという、時間であれば数字には出せますけど、やっぱりそれだけではないということもありますので、そういうところも考えていけたらいいのかなと思います。あんまり風呂敷を広げ過ぎるのもどうかと思いますけれども。以上です。

会長 はい、ありがとうございました。同じNPOとして岡本委員はいかがですか。

岡本委員

まずはじめに、すごいなと思いました。この会議を国の会議と同じ月にするんだ奈良市は、と思って大阪からやってきたんですが、びっくりしています。すごい進んでいるなと思って資料を読ませていただきました。まず感想ですが、率直に3党合意の話の中で幼保一体化にすごく力点が置かれていて、ものすごく重要な施策だし、進めていかないといけないというところもあるんですが、地域の子育て支援ということについて普段いろいろ話しているんですが、その親子がどういう親子かという、0、1、2歳の子どもがいる在宅の家庭で、資料を見ると奈良市の専業主婦率が51%と書いてあるので、要は在宅で子育てをしている家庭は奈良市は多いのではないのかなと思って読んでいますけれども、なのになぜ待機児童は減らないで増え続けているのか。多分ここで幼保一体化の話になっているんだと思うんですが、広場に来ている0、1、2歳のお母さんたちが言うのは、子育てがとにかくしんどいから働きに行きたいとか、それからちょっと休息をとりたいということで、保育ニーズといっても、1日8時間で週4日以上預けたいという保育ニーズではなくて、1日3時間だけでもいいから月8回利用したいとか、要はその保育ニーズをもう少し丁寧に調査してみると、もしかしたら今言われている待機児童が、保育所とかをイメージしている保育ニーズとは違うものが見えてくるのではないかというのが1つ感じたところです。だから専業主婦家庭で、0、1、2歳でおうちにいる子ども、先程石原さんがおっしゃったみたいに、幼稚園で預かり保育をやっているだけでも結局は親子登園に何百組も来たというあたりがすごく奈良市らしいなと思ったので、要は保育施策があっても結局親子登園にたくさん人が来たりするということは、そこにもうちょっと力を入れるような、それから保育ニーズも保育所的な保育とか、短時間でとか、要は多様な保育ニーズですね。保育ニーズの中で私たちが一番聞くことは、「ずっと私が1日中子どもを見なあかん、というすごいプレッシャーやから風邪もひかれへん、インフルエンザになって倒れられへん。」これがすごいプレッシャーらしいんですね。なので、緊急の時でもすぐ誰かに見てもらえるという安心感というのも保育ニーズとして大きいんですけども、そのへんをもう少し丁寧に保育ニーズの調査をされたらどうかなとすごく思いました。アンケートもたたき台を見たんですけども、「利用されている利用状況についてお伺いします」という、ページで言うと「ケ」ですが、「定期的な保育・教育事業の利用状況についてお伺いします」とありますけど、いや、利用していない人の、もしくは利用できていない人の保育の希望調査みたいなものをして欲しいなと思います。せっかく大がかりに調査されるんだったら、是非とも参考にさせて頂きたいので、どんな保育ニーズがあるのかということを知りたいなと思いました。

山岡参事 先程岡本委員からご指摘のありましたニーズ調査のたたき台なんですけれども、今のところ国の子ども・子育て会議の方で、第1回目が出てまいりましたニーズ調査の雛型ということでございます。第2回目には、国の方も案として調査案を出す予定をしております、奈良市の方につきましても今まで行動計画でやってまいりました子育て支援に関するアンケート調査がございまして、経年比較という意味でも、奈良市の利用量なり満足度の推移を見ていきたいと考えておりますので、そのへんの話につきましては、この子ども・子育て会議並びに部会の方でご議論頂けたらと考えております。

会長 ありがとうございます。今おっしゃったのも本当に貴重なご意見・ご報告だと思っておりますし、今日来られてる方には保健部局とかは入っていないんですけれども、産後の健診であるとか、産後直後からの連携であるとか、乳児健診であるとか、乳児健診は3か月ですけれどもそれをもっと早めたらいいんじゃないかという議論があるぐらい、最初の3か月までが非常にしんどいというか子育てストレスで専業主婦をやめる方が多いというのがありますし、一方で専業主婦のしんどさもそこから始まっているというのがあります。そのへんのところは、またさっきおっしゃったように広げ過ぎてもいけないし、家庭的保育というのをもどのように考えているかということ。それともう1つあるのは、どことは言いませんが今の若い方は、奈良は割と地域性が高いんですが、大阪府下であれば、いくらでも引っ越しをするというのが今の若い方の考え方です。子育てにやさしい街に引っ越し、また教育にいい街に引っ越し、利便性で言えば駅に近い、できれば快速が止まるそばに住みたいみたいな。ですから今度の再編に関しても、就労の方にとっては家のそばがいいとも限らないところもあって、そのへんのところも参考に伺えたらと思っています。西山先生いかがですか。私立の立場からご意見伺えましたら。

西山委員 西山でございます。まずはじめに、先程から先生方からご意見が出ているんですけれども、奈良市が率先して改革に取り組んでいる、それは市長様、教育長先生を先頭に尊敬に値する行政だと思っております。逆に言いますと、40年間奈良市の行政を拝見させてもらった者から言うと、そうせざるを得ない状況になったというようなこともありまして、1校区に1幼稚園という全国でも珍しい、およそ未来を見据えていないようなことが行われたその結果ではあるんですけれども、しかしそれを敢えて正面からとらえて率先してやろうという1つの働きについては敬意を表しております。ありがとうございます。私は幼稚園の方の立場ですので、認定こども園への移行に関しましては、いわゆる幼稚園は学校教育法の第1条に規定

されています学校としての法的地位を失ってしまう、認定こども園へ移行することによって自分の地位が失われるということが第1の問題でありますので、おそらく移行の希望はそれほど多くはないだろうと想像しております。特にこの度学校教育法、いわゆる幼稚園という文言が的確に表現されましたので、より私たちは認定こども園への移行が行われるというのは、公立の幼稚園もしくは私たちの私立幼稚園が対象になるであろうと。と言いますのは、保育所の先生方は幼保連携型には当分成り難いだろうなど考えますと、やはり公立幼稚園それから私立幼稚園が対象になる、その対象になる幼稚園が法的根拠を失うと考えるとなかなか27年度までには成り難いんじゃないかなという印象を持っています。では、奈良市の行政の方々が努力をされています認定こども園のことについてなんですけれども、どうしても話が待機児童となるんですけれども、それに関して私たちもいかにして幼稚園の立場で待機児童を受け入れる施設として運営すべきかということに関しましては、文科省が認めております預かり保育ということを現在はやっております。皆様方は、私立幼稚園は2時にお帰り、4時間保育だろうということで認識されておるんですけれども、今2時に子どもが帰ることはありません。5時、6時というのが当然のような状態になっておりまして、先程岡本委員がおっしゃった1時間の預かり、2時間の預かり、3時間の預かりというようなお母さんの要求に応じてお預かりさせてもらうというようなきめ細かなサービスが必要なんです。ただし、一番の基本はやはり幼児教育というのは私たちの根幹ですので、どのような状況になっても幼児教育というのは失いたくないし、また認定こども園がずっと進んできますと幼児教育を担うのは私立幼稚園だと自負しておりますので、保護者の要求に応える幼稚園にしていきながら、私たちはそれにも教育させてもらって、なおかつ幼児教育を守りたいと考えております。何かの形で教育もして頂きたいし、また私たちの立場から、この資料5にあります奈良市の在園児数をちょっと計算しますと、9,851名。そのうち2,398名が私立幼稚園に来て頂いております。およそ4分の1が私学に来ているということ。この事実を本当に重く受け止めて頑張っていきたいと思っているんですけれども、それに関しても、資料5の9ページ、再編の実施方法の最後の2行、「私立幼稚園、民間保育所における活力を最大限にいかすこととし、私立幼稚園、民間保育所の収容能力や位置関係を考慮してこれから再編する」という、是非この言葉を実行していただきまして、私たちもまた私たちの立場で奈良市の保護者の方がもっと来てもらえるということ、一緒に手を携えてと思っております。私個人的には奈良市というのは、奈良市にお住まいの保護者の方は、一番環境が恵まれている。いろんな環境の保育の施設のチョイスが、私は認定こども園に行きたいと、いや私は保育所行きたいと、いや私は私立幼稚園行きたいと、

いろいろな選択ができるんですよ。ですから、私がもし生まれ変わるんだっ
たらもう一度奈良市に生まれて、子どもを7人ぐらいつくって、というく
らいのことをちょっと冗談で思ってるんですけども。私立幼稚園と申し
ましても、このような状況で園児が減っております。いろいろな悩みを抱え
ておるんですけども、これからも奈良市の行政と共に奈良市の保護者と
子どもたち、何とか笑顔で帰る環境におきたい。おそらく40年前の失敗
をまたすることはないと思うんですけども、私またこれを言ってひんし
ゆくを買っているんですけども、今幼児減少どころか人口減少が奈良で
顕著なんですけれども、奈良県も顕著なんですけれどもね、私は奈良市は
これから増えていく。というのは、非常に申し訳ない発言なんですけれど
も、東北の方へも法要に行きましたり、いろんな話を聞かせてもらう中で、
皆さんがおっしゃるのは、「奈良っていいなあ。仏さんがいっぱいいて、地
震はないし、台風は来ないし、天国のようなところだ」と。言われると申
し訳ないというかそんな気持ちになるんですけども、実は家に帰って話
をするとちょっと安堵するようなところもありまして、むしろ私たち地元
の行政に関わらない一般の人間も日本のどんどこでも奈良にお住まい
頂いて奈良の良さを知ってもらおうと。それがあある種の一つの復興の考え
方でもあるのではないかなと思っております。そんな中でも、若い保護者
が奈良にお住まいになって選択ができるっていうのが一番いい環境にあ
る。すべてがこども園になってしまったっていうのは、これまた問題があ
ると思うんですけども。そんな意味でいろいろと先生方にご協力いただ
いて、皆が入りたくて、皆が喜んで、楽しい明るい街にしていける、とい
うのが私たち私立幼稚園の願いですので、そういう意味でもできる範囲内
で協力していきたいと思っております。私たちも全国組織の全国私立幼稚
園連合会の1か月前の統計なんですけれども、認定こども園への移行につ
きましてばらつきがありまして、京都はゼロです。奈良もゼロ。大阪、兵
庫とあるんですけども、認定こども園に移行する段階では幼保連携型で
移行している。横浜型もあるんですけども、やはり地域地域にいろんな
環境の設定があります。例えば、ある市町村では100%私立幼稚園とい
うところもありますので、そういうところの認定こども園への移行の仕方
っていうのも変わりますし、また奈良市のように公立の幼稚園が多いとこ
ろでは、それなりの形の認定こども園への移行というような形で、地域地
域の環境がありますので、先生方にですね、奈良独特の図面を書いて頂き
たい、というのが願いでありますので、長々申しましたけどよろしく願
いいたします。

会長 貴重なご意見、ありがとうございます。藤本委員と竹村委員のお声を
聞きたいんですけども、4時を目途に、近い方からお願いします。

藤本委員　　今、西山委員の方で幼稚園の状況をいろいろお話されましたが、保育園といたしましては、私がいつもお話させていただいていることなのですが、この会議においても最初にこのことは言わせて頂きたいと思います。まずいろんな話の中で、井岡委員が少し触れられましたが、いろんな親の都合においてもものごとを考えておられることが多いように思います。特に駅前保育園等にしても、やはり子どものためよりも、親を中心とした考えの中からの発想であると思います。私はこれからもっと子どもを中心にした保育について考えていってもらいたいと思います。岡本委員がおっしゃいましたが、私どもの保育園で一時保育を実際にさせて頂いておりますが、中にはお母さんが園に相談に来られることがあります。それは、子育てに対するストレスを持っておられる方が多いからだと思います。しかし一時保育に週3回預けられますと表情が以前と比べて明るくなります。そういったお母さん方も核家族が多くなったためであると思います。今後いろいろなニーズで保育を考えなければならないと思います。ここ最近、待機ゼロの市があると聞いておりますが、私はそのことについて単純に喜べないと思います。なぜならば、それに対するしわ寄せがどこかで起こりそうな気がするからです。子どもたちの詰め込みや安易な保育を行ったために今後問題が出てくるような気がします。私はあまりこの問題を急ぐことなく子どもが中心となる保育をゆっくりと考えていっていただきたいと思います。今までの待機児童の状況を見ますと、今後においても当分ゼロになることはないと思われます。保育園利用できるとなれば、本来保育を必要としない子どもたちまでも預けようとする保護者がますます増えてきて、たちごっこになると思います。今度、この会議においてどのようにしたらもっと質のよい保育ができるかをじっくりと話し合っ子どもと大人が住みやすい奈良市の子育てを考えて頂きたいと思います。

会長　　ありがとうございました。竹村委員は。

竹村委員　　この前からずっと子どもの関係で会議に出させて頂いてるんですが、平成29年を目標にということが進んでおられるなということで見えております。ただ、既にこの資料を見ておりますと、25年度で帯解関係からずっと出てきておるわけなんですけど、まだまだたくさんあるんですね。追いついていけるのかなという気がしております。計画立ててやっておられるんだから、なるべく早くやって皆が安心していけるような形だけはつくってあげて欲しいなと思っております。よろしく願いいたします。

会長　　ありがとうございました。ということでもう4時になってきましたので、また時間のある時に今日の資料を読んで頂いて、ご質問等ございましたら

お願いしたいと思っています。初めての会長ということで至りませんでしたけど、ありがとうございました。

5. 次回会議の日程について

事務局より会議の今後のスケジュールについて説明を行った。

6. その他

事務局より会議録の調製及び公開について説明を行った。

資料	【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿 【資料2】奈良市子ども・子育て会議運営要領（案） 【資料3】奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会設置要領（案） 【資料4】子ども・子育て支援新制度について 【資料5】幼保の再編について 【資料6】ゾーン別中学校区別 幼保施設設置状況（平成24年度実績）
----	---